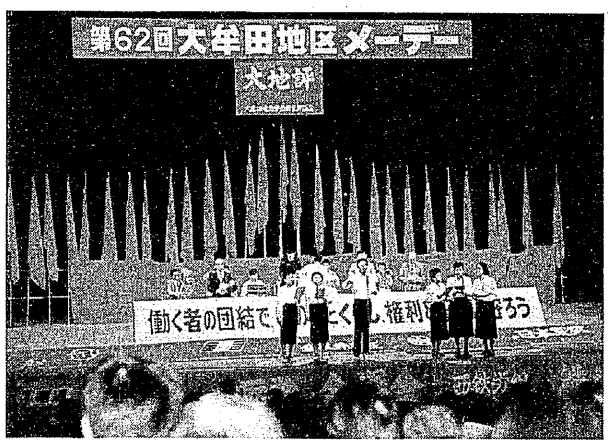
第九次石炭政策を確立し 雇用と街を守る特別決議

第62回大牟田地区メーデー大会



本年度で期限切れを迎える第八次石炭政策は、この四年間でわれわれが危惧した通り、急激な閉山・縮小合理化による〝石炭つぶし、街つぶし〟が強行され、全国で五つの炭鉱が閉山し、約一万三千人の労働者がヤマを追われ、今日なお、苦しい生活を余儀なくされている。とくに、三池炭鉱においては、三年連続の縮小・人減らし大合理化を強行し、三千人以上の労働者の削減と三川・四山の坑口を閉鎖して三池鉱（高田町）ただ一鉱に縮小してきた。その結果、残された労働者は、人員不足と過酷な環境の中で厳しい労働を強要されている。

昨年九月、石炭鉱業審議会に諮問された「今後の石炭政策の在り方について」は、八回にわたる政策部会審議がつづいているが、電力業界を中心とするユーザー側は「国内炭不要論」の主張に固執し、「現有炭鉱の維持・存続・産炭地域の振興」を主張する労働者、産炭地域自治体側の主張と真っ向から対立する状況で推移する厳しい内容となっている。

政策審議が、いよいよ五月段階での政策答申原案の提示、六月答申の予定ですすめられようとしているとき、三池炭鉱をかかえる産炭地域や住民にとって重大かつ緊急な情勢を迎えようとしている。われわれは、これ以上の地域における疲弊の進行を許すわけにはいかない。

〝石炭つぶし、街つぶし〟の動向に歯止めをかけ、地域の活性化と再開発を図り、国内炭の生産量を確保し、三池炭鉱を安定的に存続すること、雇用と生活を守ることなどの諸施策を基本とする第九次石炭政策の確立をはからなければならない。

また、われわれは市民ぐるみの地域活性化の運動をさらに拡大・強化するために、全ての組織の力を結集し、国内炭と街を守る第九次石炭政策の確立にむけて全力でたたかい抜くことを決意する。

右決議する。

一九九一年五月一日

第六十二回　大牟田地区メーデー大会

姿見

希望のある明日を

大牟田ブロック　河内山　満　子

わが家には三人の子供がいます。小さいときは、一緒に大声を出し、バタバタと子どもに振り回される毎日でしたが、それぞれ個性の違う子どもに接しながら自分自身がいろんなことを学んできたようです。

子供たちもそれぞれ自分の主張をしながらも、家族の一員として、相手を思いやる優しさを持っ子に成長してくれたことを大変うれしく思っています。わが家の宝物である三人の子供たちが、健康で自分が決めた道を精いっぱい頑張って進んでくれればと、思っています。

しかし、今の情勢を見ていると、子供たちにとって未来が希望のある住みよい世の中になっていくのだろうかと不安に思われます。

日常生活を見ても「使い捨て」「飽食美食」の時代になり、生活も便利で豊かになりましたが、ゴミの氾濫、大気の汚染、自然の破壊など地球は病み続けています。

それに輸入の自由化などで、農薬やポストハベストによって健康がおびやかされ、相いつぐ原発の事故など、決して安心できる状況ではありません。

世界も大きく揺れ動き、大きく変化しています。

今度の地方選はいろんな問題に真剣に取り組んでいく人を選ぶ大事な選挙でした。

私たちの生活と、子供たちの未来を託していけることを大いに期待しています。

職場の声

低額回答許せない

世の中の注目を集める春闘は、大部分が終わりを迎えている。

それぞれ満額とはいかないまでも、かなりの成果を収めているようだ。新聞報道などによれば、平均で一万三千円余り（五%以上）である。

石炭産業はどうか。不況・石炭政策を理由に今年もまた抑え込まれた形になった。一方二百九十五円（三・二三%）、月平均七千円余りである。他産業との格差がまた開いた。

その上、三井は七月からの賃上げで、四月から六月までの差額も支払わないという。ここまでくればもう踏んだりけったりだ。差額分ぐらいは何とかしなければ浮かばれない。日々物価が上昇する中で、母ちゃんの嘆きの声が高くなる今日この頃である。

親会社は何してるか

四月から三池病院が三井石炭社から三井鉱山に移籍された。

病院経営が薬価差益や薬づけ、検査づけなどによって儲かる企業であることはよく知られている。

以前にも、黒字部門であった三池港務所が石炭社から分離され、三井鉱山に吸収されたが、巧妙な手口は今回も同じである。

いまや石炭社は、外堀りと内堀りを埋められた大阪城と同じで丸裸だ。

河原崎石炭協会会長（三井鉱山社長）は「石鉱審」の中で、今後の石炭経営の安定化のために「海外炭の開発と経営の多角化」を表明しているが、丸裸同然の石炭社に経営の多角化ができるのかどうか、全く疑問だ。

三井鉱山のやっていることは、自ら言っている「石鉱審」での発言とは明らかに背反しており、親会社の支援どころか、子会社の足を引っ張り続けている。

斜坑BC二交代に

「今年は合理化はなかげなばい」などの話が現場で交わされているが、旧三川鉱大斜坑のベルト当番が二交代になり人減らしになった。二百五十万トン体制になった昨年から二番方の揚炭が中止され、三番方の材料運搬も中止、坑外運搬の井形組も三月から二交代になっている。

大がかりな人減らし合理化はないまでも、このようにあちらこちらで人減らし合理化は着々と進んでいる。これ以上の人減らしは危険だ。命とくらしを守り、三池炭鉱の閉山を許さないためにも力を合わせて頑張らなければならない。

（三分会職場新聞『やま』五十一号、五月十日発行から）

狂句

やま男

マネーゲーム
バブルはじけて
ゲームセット

北の島
指切リゲンマン
何もなし

あやまちを
ふたたびおかす
掃海艇

あほ・だら

芦岡力友徹

「三池CO守る会」の皆さんへお願い

皆さまご健闘のことと存じます。

会費を納入していただいている国振替口座番号が、労働金庫の全国一律オンライン化によって5月7日から変更されましたので、今後次の口座番号への振込みをお願い致します。

福岡県労働金庫大牟田支店
普通預金　2612963

三池不当解雇 第十四回公判

日時　三月二十二日（水）
　　午後一時三十分開廷
場所　福岡地裁三〇一法廷
※　原告側大里証人に対する被告会社側の反対尋問
※　十時三十分集合、五十三分発西鉄電車利用

敬弔

室野井　清さん（11・9災害CO患者・八十歳）五月六日死去。七日葬儀。遺族は荒尾市増永合道一五七五にスエノさん。

心から哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り致します。

炭労第125回臨時大会 大会宣言

昨年九月に石鉱審政策部会において、「今後の石炭政策の在り方」について審議が開始されていらい、われわれは現存炭鉱の維持・存続と産炭地域振興を図る第九次石炭政策の確立を目指し、これまでにあらゆる行動を展開してきた結果、当初、強硬的であった国内炭早期撤退を回避できた。

しかし、依然われわれを取り巻く情勢は厳しく、石鉱審における審議も、国内炭の段階的縮小を審議の基本としながらすすめられてきており、六月の答申を控えて第九次石炭政策闘争は最初のヤマ場を迎えようとしている。

このようななか、全炭鉱労働者と家族、産炭地域住民が注視のもと、炭労第一二五回臨時大会が開催された。

現在、予想されている答申内容は、国内炭の構造調整を基本にするものと思われるが、その具体的内容は答申後に持ち越され、このまま推移したならば、再びナダレ閉山、縮小の嵐となることは十分考えられる。

しかし答申に対し、やみくもに反対するだけでは、むしろわれわれの要求が受け入れられることは困難となるであろう。

このようなことから本大会では、今後のたたかい方を、「現存炭鉱の維持・存続」「雇用の完全保障」「地域対策の拡充・強化」の実現を求める対置要求闘争方式が最善であるとの選択をし、確認したところである。

組合員と家族のみなさん

国際協調、経済性優先、首都圏集中のもとで貴重な国内資源を放棄する政策とは、断固としてたたかわねばなりません。企業だけが残り、組合員や地域を見捨てるやり方は何としても阻止しなければなりません。

われわれは今日まで、政府、会社のあらゆる攻撃とたたかいながら、日本経済発展の担い手としての誇りを持ち、国内唯一のエネルギー資源である石炭を守りつづけてきた。

今後もその誇りを失うことなく、われわれの生命と生活と地域を守るため、組合員と家族、産炭地域住民の心を一つにし、組織の命運を賭けて最後までたたかい抜くことを、本大会の名において宣言する。

一九九一年五月九日

炭労第一二五回臨時大会

ヤマとマチを守る総決起集会

とき　五月二十二日（水）午後五時三十分
ところ　大牟田労働福祉会館大ホール（大牟田実行委主催）
　　荒尾市役所前広場（荒尾実行委主催）